

産業研究は智徳の練磨であり、 もって社会に貢献すべきである。

—— 電力中央研究所創設者 松永安左工門

1951年の創設から半世紀。電力中央研究所は、電気事業の総合研究機関として、公益的な立場から、エネルギーから環境に関わる研究まで、広く科学技術の発展に寄与してきました。

「電気事業や社会における様々な課題解決のお役に立ちたい——」。電力中央研究所は、「コスト低減と信頼性の維持」「総合エネルギーサービスの創出」「エネルギーと環境の調和」の3つを研究目標として掲げ、エネルギー技術、産業や社会に貢献する革新的なテクノロジーと情報、豊かな暮らしに役立つ身近な技術など、幅広い分野の研究開発に取り組んでいます。専門分野別の研究所8拠点では、600名以上の研究者・技術者たちが、分野横断的な課題にも総合力を発揮できる体制のもと、より快適な暮らし・豊かな未来社会を目指して日夜挑戦を続けています。

シリーズ『夢を技術に！ 未来への挑戦』では、先端的な基盤研究に挑む研究者たちをご紹介します。

